

Letter from Ishinomaki

vol.3 もうすぐ1年

やっへす通信

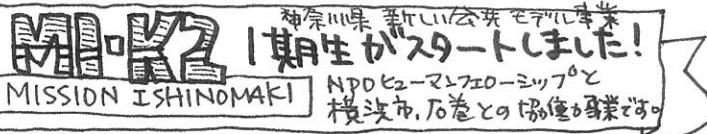
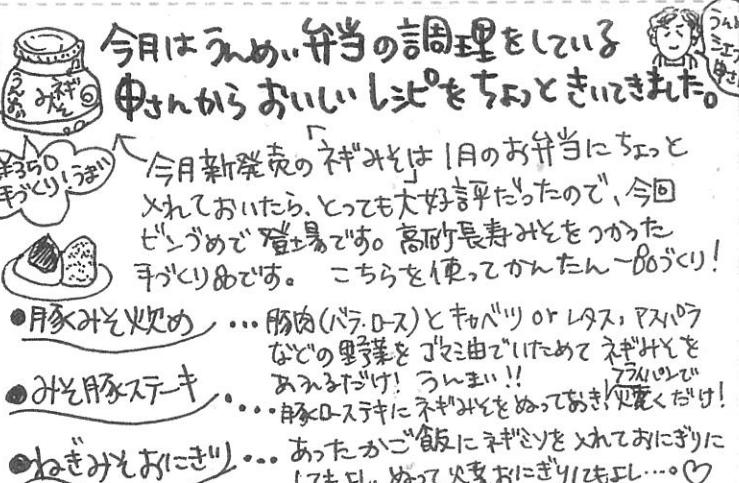
石巻震災復興 × 若者の自立支援プロジェクト チューンフェローシップ

石巻 K2 スタッフ ゆりこより……

いつも応援ありがとうございます

未曾有の大震災からもうすぐ1年が経とうとしています。日本国内のみならず、世界中からたくさんの支援をいただき、今も生かされていることを心から感謝します。震災から1ヶ月以上、避難所で生活していた私と家族ですが、全壊した自宅を何とか修繕してもらい、戻ってくることが出来ました。自宅を元通りにまでは直せませんが、落ち着いて生活出来るようになりました。あの震災で、私は、人が生きていく上で、本当に大切なのはたくさんはいらない、ということを学びました。今まで大切にしてきた多くの物を失ったし、大好きだった人たちが犠牲になつたし、震災直後は物資も何も支援が届かない状況でしたが、それでも、生きるために本当に必要な最低限のものは、その時、その時で、不思議なように与えられてきたので、そう思えるようになりました。

それは、食べ物や飲み物や着る物や、また住む場所という物質的なものだけではなくて、体験した恐怖や哀しみや辛さや、言葉では言い表すことの出来ない心の傷みに寄り添ってくれるたくさんの人たちとの出会いがあったからです。まだ見えない、未来への希望をみせてもらえたからだと思います。大好きだった人たちも、失ったものも、もうこの世には帰って来ないし、人間は本当に小さく何も出来ない存在でしかないけれど、海の街で育った私は、今でもこの海がやっぱり大好きだなって思います。醜いところもいっぱいある人間だけど、海や空を見てたら、それでもやっぱり、私達人間は愛されてる存在なんだな、と思います。震災からもうすぐ1年、長かったのか短かったのかはわかりませんが、あの日から人生が一変したことだけは確かです。まだまだ復興と呼ぶには程遠い街並みと被災地の心の状態ですが、これからも、変わらず希望の光と共に歩んでいきたいと思います。



2012年1月より石巻を中心とした新しい若者支援の長期事業として
プロジェクトをスタートしました。横浜市内外から東北に困難を抱える
若者達を募集し、年商約20万円の若者達がこれからプロジェクトに参加し
石巻での生活、ボランティア活動、現地での京成トレーニングなどを行います。
うんぬん市も石巻在住メンバーが増えれば、もっと活性化されるこ
とがいいよ。石巻に地元の人達と一緒に働く場をつくりたいと
見えます。これが純粋おねがいします!!!

本日はみ弁当。物産品をご購入いただきありがとうございました。
本日のプロジェクトについてホームページを開設しました。よからなー度
http://nw.k2-inter.com/ishinomaki/
来月もまたよろしくお腹貰い上げます!!!

石巻二のトコターです vol.3人目

◆祝田2区行政区長：及川善一さんにお話を伺いました！
「もうあく1年なので、イタビューコーターにいました。」

K2ハウスが祝田2区に拠点を設けてからいつもお世話になっている及川さんにお話を伺いました。及川さんは、この地区の行政区長で、震災時もこの地域のみなさんのために、いろいろとご尽力されてきました。

震災の日は及川さんは何をされていましたか？→「牧山という近くの山へ散歩中でちょうど山から降りてくる途中でした。2度の大きな揺れにあい、すぐ後ろで崖崩れが起き、危険を感じて急いで山を降り、自転車に乗った時には大津波警報が発令されていました。津波が来る前に家まで辿り着き、なんとか車を高台に持っていましたが、その後に大津波が押し寄せてきました。真っ黒な物凄い波の勢いで、家や船や車やいろんな物が流されてきました。近くの万石浦橋には、大きな船や家がぶつかり、碎かれてさらに流されていました。その後、牧山から自宅まで帰ってくる時に通った地域は本当にひどい状況で、その周辺には建物がほとんど残っていません。途中で津波にあっていたら、今、私はここにいなかつた・・・」と静かに話されていました。

及川さんも避難所生活をされていたんですね？→「自宅も1Fが津波の被害にあい、震災後1ヶ月近く、避難所になった集会所で生活していました。ある日、近くの道路にへその緒がついたままの赤ちゃんが捨てられている事など今でも目に焼き付いて離れません。津波がおさまってからも、この地域は地盤沈下が激しくて、満潮時には道路が冠水して毎日大変でしたね。K2が引っ越してきた頃も、色々手伝ってもらって助かりましたよ。」

台風の時も大変でしたね。→「道路のかさ上げ工事、排水ポンプの設置などやって少し落ち着いてきたとおもったら、昨年9月の台風の時に再び床上浸水の被害にありました。本当に大変でしたね。K2の皆さんにも残ってもらって手伝ってもらいましたね。」

これからこの事で特にご心配されている事はありますか？「今後の不安は、この地域周辺に病院がほとんど無くなつたことですね。被災した事業所も多く、若い働き手がどんどん石巻を離れていくこともすごく残念です。」

震災からもうすぐ1年、今、感じられることをお伺いましたが、しばらく沈黙が続き、言葉に詰まっておられました。それほど大きな災害だったことを、あらためて思います。それでも地域の人たちと支え合い、この地域に来てくれる数少ないボランティア団体にも助けられ、今は自宅に新しい畳も入って修繕工事も終わり、おだやかな生活に戻っているので、本当に感謝しているとお話ししていました。



及川さん
80才!!
趣味は
タバコ!!
とつ